

三田高校

TOMOKAKI



第32号

発行所/東京都立三田高等学校

(青葉会・同窓会)

港区三田1-4-46 3453-1991 (代)



五、二六九名の

ふるさと

会長 若月 義男

平成二十年三月八日、定時制課程は七十九年間の長い歴史に幕を閉じる日を迎えました。午前十時三十分からの卒業式、引き続き閉課程記念式典が学校の音楽講堂で挙行され、その後場所を東京プリンスホテルへ移動して「ともかきの会」(懇親会)が開催されました。

この日を迎えるにあたって、学校、PTA、後援会(PTAのOB)、同窓会が一緒になって「閉課程委員会」を立ち上げ、議論を重ねながら準備を進めてきました。青葉会としては閉課程委員会と併行して幹事会を十数回開催し、「ともかきの会」の内容、「青葉会の歩み」(ともかき集約版)の作成、記念プレートの作製等種々議論をしてきました。卒業式では、十名の生徒全員が最後の卒業生として巣立っていきま

ただきたいと思えます。午後一時三十分から「ともかきの会」がプリンスホテルにおいて、二四五名の参加のもと盛大に開催されました。今回、役員一同が一番心配したのは初めてのホテルでの開催ということ、高

この後、正門に取り付けられた、同窓会、PTA、生徒会合同で作製の「記念プレート」の除幕式のセレモニーが行われました。石田元会長の挨拶をいただき、終了後、記念のスナックに納まる人、さわって感触を確かめる人、様々な想いを胸に懇親会場へ向かいました。記念プレートには、定時制課程の期間「昭和四年から平成二十年」、卒業生「五、二六九名」が刻まれています。当日参加できなかった方は、機会を作って是非ご覧

かともまた心配といった具合でしたが、結果オーライだったと思います。また、今回はいつもの同窓生、先生方に加え、

先ほど卒業したばかりの一〇名、保護者、PTA、後援会、全日制のPTA関係の皆様、そして、同窓生でもあるスカルノ ラトナサリ デヴィ様にもご参加いただきました。

今後のことですが、会場でもお話ししましたとおり、この「ともかき」の発行をもって現役員による活動は終了させていただきます。同窓会の原点であるクラス会・同期会を継続発展していただき、いつの日か、また、一堂に会することができればと思います。

ため、資金面の心配は解消されました。そこで今回の「ともかき」はページ数を増やし、できるだけ多くの皆様の写真を掲載することといたしました。最終的に残余金が発生した場合は学校関係等へ寄付等の措置をとりたいと考えています。勝手ではございますが皆様のご賛同をいただければ幸いです。

青葉会を支えてくださった皆様に心より感謝申し上げます

一月の申込締め切りの時点では一〇〇名を少し超える程度、二月初めに二〇〇名程度の見込みとなり、ほっと一息、直前に参加が集中し最終的には二四五名(当日欠席含む)となり、今度は料理が足りるだろう

より懇談はスタート、食べ物や飲み物を運ぶ方、久しぶりの再会に語り合う方、かつての恩師のお話を聞きながら時間は

この記念行事の実施にあたり、協力金、ご寄付をお寄せいただいた皆様には心から感謝申し上げます。会計報告は後段に掲載してありますが、新聞発行の時点では最終決算までは報告できません。協力金が予想以上に多額であったこと、直前での参加者が多数あった

平成二十年三月八日、三田高校定時制課程は幕を閉じましたが、定時制課程が七十九年間存在したこと、そして五、二六九名が卒業していった事実は消えることはありません。私たちの「ふるさと」はひとつです。